

(第6期：2023、2024、2025年度)

2023年度沖縄大学外部評価委員会（第6期）議事録

日時：3月12日（火）18:00～19:50

場所：沖縄大学本館2階大会議室

出席：神里みどり委員長、嘉納英明副委員長、座間味亮委員、西平博人委員、及川順委員、上田真弓委員

大学側：山代寛学長、黒木義成副学長、崔珉寧副学長、嘉数健悟教務部長、大城貴之学生部長、豊川明佳経法商学部長、下地みさ子健康栄養学部長、名城健二現代沖縄研究科長、佐喜真實理事長、金城敬常務理事、森田泰弘学長補佐、金城直樹事務局長、山内昌也総務課長、経営企画室 兼 島徹（事務局）

委任欠席：渡邊ゆきこ人文学部長

<配付資料>

- ・2023年度沖縄大学学部評価委員会(第六期)次第
- ・沖縄大学外部評価委員会規程
- ・OKIDAI VISION 2028 チラシ
- ・沖縄大学の中長期計画と自己点検・評価活動等について
- ・OKIDAI VISION 2028 & 第六次中期計画【全学計画】2024年度～2028年度

- ・金城直樹事務局長の司会で外部評価委員（第6期）の任期（2023年度～2025年度）について説明があり、山代学長より各委員に委嘱状が交付された。
- ・委員会開催にあたり、金城事務局長より、配付資料「沖縄大学外部評価委員会規程」にもとづき、委員会の目的や役割等について説明がなされた。

1. 開会挨拶【山代寛学長】

- ・本日は年度末のお忙しいところ、本学外部評価委員会にご出席いただき感謝申し上げたい。本委員会は年1回の開催で委員の任期は3年となっており、第六期外部評価委員会としては、最初の委員会となる。
- ・本学は長期ビジョン「OKIDAI VISION 2028」を道標に5年の中期計画を策定している。今年度は2023年度に終了する第五次中期計画の総括と2024年度からスタートする第六次中期計画の策定を行った。
- ・本学の自己点検・評価や内部質保証において、外部評価委員の皆様からのご意見を重視していくことが確認されている。本日は委員の皆様から様々なご意見を頂戴したい。

2. 委員自己紹介、委員長及び副委員長選出

<委員自己紹介>

- ・神里みどり委員：沖縄県立看護大学の学長に就任した3年前から沖大の第五期外部評価委員として、

沖大の取り組みを見てきたが、いつも前進している姿に感銘を受けている。第五期からの再任となるが、委員の皆様からいろいろ教えていただき、多様な意見をお伺いできればと考えている。

- ・嘉納英明委員：名桜大学では研究科長を務めている。専門は教育学で沖縄戦後教育制度を研究している。沖縄市コザ生まれコザ育ちで、昨年還暦を迎えた。30年以上前の20代後半に中学校社会科の免許を取るために1年間沖大の夜間部に通学し、平良研一先生の講義を受講した。また、30代中頃には、行政法の故山吉剛先生の授業にゲストで呼ばれて沖縄の教育について話をさせていただいたこともある。

アネックス共創館のネーミングの際には、私が応募した「アネックス」が採用され、仲地元学長から金一封いただいたが、沖大の学生とやんばる食堂で全て使い果たした思い出もある。数年前から沖大の教職科目の非常勤講師を務めており、沖大とは何かと縁があると感じている。

- ・座間味亮委員：株式会社赤マルソウの代表を務めている。沖縄県中小企業家同友会では副代表理事をしており、今回は同友会の代表として委員を務めさせていただく。2024年度からは甥っ子が沖大に入学し、お世話になることになった。
- ・西平博人委員：那覇市立病院の近くの、昔、真嘉比道（まかんみち）と呼ばれていた道の下に位置する松島自治会の会長を務めている。また、真和志地域40の自治会長が集まる真和志自治会連絡協議会副会長を務めている。地域の後継者が少なくなっているという現状を踏まえた視点から、意見を出していきたいと考えている。
- ・及川順委員：昨年7月からNHK沖縄放送局コンテンツセンター長（放送やネットのコンテンツの責任者）を務めている。もともとは記者で日本の政治とアメリカの社会問題を専門にしている。沖縄に来る前はロサンゼルスに4年いたが、沖縄勤務を命ぜられ、喜んで赴任してきた。沖縄の事はまだよく知らないが、メディア分野からの代表として意見ができるように微力ながら貢献していきたい。
- ・上田真弓委員：学籍番号89H010。宇井純先生のゼミに所属し、新崎盛暉先生がいらした活気がある沖縄大学で4年間を過ごした。大学在籍当時から演劇をやりはじめ、40代で琉球大学の教育学の修士課程を演劇教育で修了した。これまで名桜大、沖縄大以外の県内大学で非常勤講師を務めている。最近、名桜大学の先生が審査員を務めた琉球新報の短編小説の児童文学部門で入賞した。芸術畑を主に歩いてきている。

<委員長及び副委員長選出>

- ・委員長の選出について、金城事務局長より、神里みどり委員を委員長とする事務局案が提示され、承認された。
- ・神里委員長より、嘉納英明委員が副委員長として指名された。

※委員長および副委員長選出後、以下、次第3～5について、神里委員長により議事の進行が行われた。

3. 沖縄大学の中長期計画、自己点検・評価活動の概要説明【金城直樹事務局長】

- ・金城事務局長より、配付資料「沖縄大学の中長期計画、自己点検・評価活動の概要説明」に沿って、「(1) 沖縄大学の理念、長期・中期・単年度計画」、「(2) 沖縄大学の内部質保証」、「(3) 沖縄大学の自己点検・評価活動」について説明がなされた。

4. 第五次中期計画の総括及び第六次中期計画の説明【山代寛学長】

- ・山代学長より、配付資料「OKIDAI VISION 2028&第六次中期計画【全学計画】2024年度－2028年度」に基づき、第五次中計画の総括（p.10）、第六次中期計画基本方針（p.19～21）、第六次中期計画【全学計画】（p.22～43）について説明がなされた。

5. 意見交換

【質問：神里委員長】

- ・全国の私立大学において定員割れが起きている中で、定員充足率 100%以上を保っている要因について、工夫していることなど具体的に教えていただきたい。

【回答：崔副学長】

- ・オープンキャンパスの強化など、これまで行ってきた様々な努力を継続してきたが、新型コロナの拡大により、県内高校からの志願者が明らかに増加し、入学者が増えており、環境の変動による影響の方がかなり大きかったと考えている。
- ・コロナ禍が落ち着くと、県外志向が顕著になり、今年度は本学の志願者も減っており、安心できる環境ではない。多様な対策を講じていく必要性を感じている。

【回答：山代学長】

- ・沖縄県内は大学進学のみではまだまだ伸びしろがある。県内大学で協力して沖縄で学ぶ強みをアピールするなど検討したい。

【質問：及川委員】

- ・学部だけでなく、現代沖縄研究科の志願者確保についても課題となっていると思うが、県外や海外に向けてどのようにアピールしていくかがポイントになるのではないかと。どのようなアピールを行おうとしているのか教えていただきたい。

【回答：山代学長】

- ・本学は全国に先駆けて大学間相互で学生を派遣しあう「派遣留学制度」を作ったが、県外大学の学生には、沖縄にある大学で学ぶことによる視野の広がりを県外に持ち帰ってほしいという視点があったと思う。そのような視点をアピールしなければならないと感じる。
- ・中国からの留学生は激減しており、政治の影響を大きく受ける側面もあるが、そのような状況に左右されることなく、留学生を受け入れていかねばならないと思っている。

【回答：嘉数教務部長】

- ・外国からの留学の場合は一定程度の日本語能力が求められるが、留学生に日本語を教える受け入れ態勢が整っていないのは課題である。本学には以前、留学生別科があり、100名近い留学生が在籍していたが、別科が廃止となり、受け入れ態勢がなくなってしまった。

【質問：神里委員長】

- ・別科が廃止となった理由をお聞かせいただきたい。

【回答：山代学長】

・別科修了後に学部への入学につながらなかったことが主な要因となり、廃止となった経緯がある。

・福祉を学びたいという留学生もいるので、そのような側面にも着目していきたい。

→留学生の中には、介護や看護の分野を学びたいという学生も多いので、福祉文化学科は県内の日本語学校修了生をターゲットにするのもよいかもかもしれない。(神里委員長)

【意見：上田委員】

・広島出身で沖大に入学したが、当時、ユニーク入試をやっていたのは沖大と ICU だけだった。沖大への入学に親からの同意を得るために、学費が国立並みであったことや様々な実践活動をやってくれた宇井先生や新崎先生の存在を説得材料にした。県外や海外の学生に向けて、沖大の特色をどのように打ち出すかをしっかりと考えていくことが大切ではないかと感じる。

・沖大は小さいからこそ、はみ出して学べるのだと思う。「地域がキャンパス」を実現するためにはどうすればよいかを考えていくことが重要ではないか。ミニシアターも活用していただきたい。

【回答：山代学長】

・大学としてさまざまな仕掛けを検討していきたい。宇井先生のような存在がいたこと、大学の歴史を伝えていくことも大事ではないかと感じる。

【意見：西平委員】

・那覇市には 150 近い自治会があるが、これら地域に接続していくことが「地域がキャンパス」につながっていくように思う。沖国大の学生団体 Uni(ユニ)との連携により、地域活動に関わってもらってきたが、問いを自分で創れる若い人が必要ではないかと感じている。

・繁多川公民館のスタッフとしても勤務しているが、様々な枠組みが変わってきており、過渡期にあるような感覚もある。那覇市の小学校が今後、コミュニティスクールに移行していく動きは、「地域との連携」という新たな枠組みの必要性を感じる。また、コロナ禍以後、自分たちで答えを探さなければならなくなっている状況もあり、答えがない時代にどう自分で問いを創り、どう答えを導きだしていくのか、そのような若い人材を地域がどのように育てていくのかが問われているという思いもある。

・沖大の地域と関わっていききたいという思いに応えるためにも、自治会という受け皿を通して地域を見て、感じていただき、自分で問いを創り、答えを自分で創っていくというような新たなつながりができればと考えている。

・那覇市・沖大・自治会が連携する新たな企画について検討を行っている。学生が地域で活躍し、地域もその恩恵を受けて地域の活力につなげていくことを今後考えていきたい。

【意見：座間味委員】

・同友会でも 2025 年度までの第七次中期ビジョンを進行しているが、昨今の環境の激変を受けて、ビジョンの見直しについての議論もあった。しかし、理念が変わらないのだから、ビジョンも変えなくてもよいとの結論に至った。やはり、「理念ありき」であると感じている。

・沖縄大学憲章には「共育」という言葉があるが、同友会でも「共育」という言葉を使っており、共感している。

- ・地域との関わりがないと中小企業も育たない。「地域ありき」と感じる。地域にどれだけ根差しているかが重要ではないかと思う。
- ・沖大とは包括連携協定を締結しているが、沖大のビジョンをお伺いして、今後、さらに連携を強めていきたいとの想いを新たにしたい。
- ・新卒の採用が難しくなっている状況もある。学内合説や地域合説に力を入れていきたい。大城学生部長には引き続き協力をお願いしたい。

【意見：嘉納委員】

- ・沖大の「地域がキャンパス 地域のキャンパス」のキャッチフレーズの作り方がうまい。地域へのこだわりを感じる。
- ・土曜公開講座は那覇だけでなく、沖縄全体の生涯学習センターの位置づけになっており、研究成果を市民に提供している。宮古や八重山でも移動公開講座を実施してきたと思うが、県民に教養を提供してきたという印象も持っている。
- ・第六次中期計画【全学計画】の p.28 にもあるが、反戦・基地問題等について関わり、研究がなされてきており、個人的には平和研究の成果を発信していく視点があってもよいと感じる。
- ・沖大出身の小学校教員が増えているが、20 年後は沖大出身者が管理職も多数を占めることも予想され、一大勢力になっていく可能性もある。
- ・高等教育の修学支援奨学金制度の影響もあり、近年は沖縄の高校生の県外志向が顕著になっている。また、男子よりも女子の大学進学率が増え、普通高校や商業高校出身の女子の大学進学割合も増加している。県内外、国外の高校生のニーズにどのように応えていくかは課題になるであろう。
- ・沖大は名桜大の次に公立化するのではないかと考えていた。授業料が半額になるのは非常に大きい。公立化以前、名桜大は 9 割が県出身者であったが、公立化以後、県外出身者が 5 割を超した。そのようなことも踏まえつつ、今後議論を行っていただきたい。
- ・「小さな大学の大きな挑戦」の p.160 で、新崎先生が那覇市立大学を目指す方向性について書かれている。沖大は公立化の構想が以前からあった気がする。
- ・知念那覇市長は沖大出身、古謝玄太副市長は公立大学所管の総務省出身で役者がそろっているようにも感じる。

【意見：上田委員】

- ・公立のメリットやデメリットは何なのかを考える必要がある。沖大が西暦表記を使用しているが、公立化すると元号表記になってしまうかもしれない。公立化により学費が安くなるのはありがたいが、沖大の一本筋が通っているよい面までなくなってしまう懸念もある。
- ・FEC の山城智二さんの映画はすごくよかった。沖大の宣伝にもなっている。芸能面で活躍している卒業生も多い。そのような面を特色として打ち出していくことも考えられる。

【意見：及川委員】

- ・アメリカの公立の大学ではよいところも多い。アメリカの私立の名門大学は学費が高く、金持ち

しか行けないと言われている。アメリカの州立大学にお世話になった先生がいるが、その大学は地域密着の大学で、優秀な学生、学習障害を持った学生、苦学生など、いろいろな学生がいた。いろいろな人を集めて、大学でコミュニティを創っており、それ自体が学生への刺激になり、学びにもつながっていた。

- ・地域密着は沖大の強みであると思う。いろいろ仕掛けており、ポジティブな印象を持っている。大学がいろいろな人が集まる広場となっており、「多様性」や「地域密着」が大学の柱となっている。長期ビジョンや中期計画にそれが色濃く反映されているのだと感じる。

【意見：神里委員長】

- ・今後 5 年間で取り組む第六次中期計画は長期ビジョンの達成に向けて検討がなされており、沖大の特徴が「地域」や「共育」などのキーワードで打ち出されている。そのようなことを大事にしながら多様な学生を大学でいかに育てていくのかを考え続けている印象を持った。次の 5 年間で前向きに歩んでいただきたい。

6. 閉会挨拶（黒木副学長）

- ・本日は年度末のお忙しい中、本学にお集まりいただき、また、貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。本日頂いたご意見をしっかりと受け止めて大学運営に生かしていきたい。今後 3 年の間、皆様から忌憚のないご意見を伺いながら大学内部と外部の皆様が連携し、学生の学習環境を整え、学生主体の大学を創っていきたいと考えている。

以上

（記録：兼島）